

第 34 回拓殖大学杯 6 年生 1 回戦 6 月 5 日 (日) 拓殖大 G



- チームのめあて
- ・周りを観る・コンビネーションプレー
- ・コミュニケーション



南八王子 0 - 6 高尾 前半 0 - 3

前半 5 分、CK から工藤君のヘディングシュートがバーを直撃。13 分、相手 CK をヘディングで決められ 0-1。17 分、中盤でボールを失い、ディフェンスラインを突破され、GK 牛窪君が果敢に飛び出しますが、かわされて無人のゴールへ。0-2。終了間際にも失点し 0-3 でハーフタイム。

11・6・18(土)
南NEWS NO18

後半 開始早々南が攻め込み、細川君がミドルシュート。4 分、左サイドを崩され失点し 0-4。その後 2 失点し、合計スコア 0-6 で敗れました。

○チームのめあての達成

- ・縦へのパスやドリブルばかりが目立ち、相手に読まれていました。残念ながら周りを観ることができていたとはいえませんでした。
- ・わずかにワンツースを使う場面が見られる程度でした。
- ・マークがはっきりせず失点したコーナーキックやカウンター時のカバーリング、相手ボールになった際に第一 DF を決めきれないなど、コミュニケーションが取れていれば…と思う場面がたくさんありました。

前半13分に失点するまでは南がペースを握っていました。その間に得点できていれば、と思う部分もありますが、めあての達成で書いたような状態では逆の結果は難しいですね。

攻撃面では南でボールを持つ時間を長くする (=ボールを簡単に失わない) ことを考えたい。縦(ゴールへ向かう)へ向かう意識の強さがこのチームの特徴でもあるけれど、グラウンドの横、斜め、後ろを意識して使えるようにしなければならない時期にきていると思います。

守備面ではマークのずれからのセットプレーの失点はいい加減なくそう。攻撃時に守備時の備えをしよう。一人一人の意識を上げることとコーチング・コミュニケーションが必要不可欠です。ここしっかりやれば失点は防げるはず!

by 加藤コーチ

6 年生 対七小 練習試合 11 人制、20 分ハーフ

6 月 12 日 (日) 第 7 小学校

- 第 1 試合 7-1 勝ち
- 第 2 試合 0-2 負け
- 第 3 試合 1-2 負け
- 第 4 試合 0-1 負け (ハーフのみ)

チームのめあて:

- ①ポゼッション。ボールをキープし失わない ②渡り廊下を使う
- ③パス、トラップを正確に ④同一視 (特にコーナーキック)
- ⑤パス&ムーブ

第一試合は南のペースでした。MF 加藤君のミドルシュートが決まり幸先の良い開始です。相手の動きも鈍く、試合前の最大のめあてだったボールをキープする意識が高く圧勝しました。第 2 試合以降は、試合が進むにつれて縦への攻撃が目立ち始め、簡単にボールを失うことも多くなり、徐々に相手ペースになります。第 3 試合、第 4 試合では試合のめあてを再確認した結果、渡り廊下を使ったプレーやワンツースも多く見られました。

相手は全日本 1 2 ブロック 3 位で都大会出場したチームでしたが、南が意図を持ったプレーをした時は優位に試合を運んでいます。ドリブルの個人技は相手を上回っていますが、ポゼッションを含めたチームプレーでは精度に欠けています。ボールをキープしながら相手を崩せるコンビネーションプレーが出来るよう、今以上意識を高めて練習に GAMBAROU。

by 中野コーチ

やらされる練習から自分たちで取り組む練習へ!!

本当に強くなりたいのなら、練習でも観えない相手に勝つことが必要です。元ジャイアンツの桑田選手が言っています。「ただだら長時間の練習をしているとその緩慢な動きが身についてしまい、それが試合に出る」と。全日本の長谷部選手が言っていました。「練習は 1 日 1.5 時間か 2 時間です。後は本を読んだりしています」と。

本当に集中して全力で、トップスピードで練習したら 1 時間だってもたないはず。自分のめあてを持って、やらされる練習から自分で取り組む練習にしないと成果を望むことはできません。これだけの練習をしたのだから、あれだけの練習をしたのだからと言える練習にしていこう。

どんなチームになりたいかみんな確認し、そのために何が必要か考えてみよう。考えた一つひとつのことを解決する努力を積み上げていこう。そうすれば光は見えてくるよ。大きく希望が膨らむよ。

やらされる練習や試合なら、日々の活動も意味がないよね。『教えるとはともに希望を語ること』と言います。ただだらやる練習を観ているとコーチだってモチベーションが落ちてくるんだよ。希望もなく、楽しくないよ!

by 南のアンパンマン

